

(新規課題)

NO. 7	技術開発 課題名	「メゾネットハウス」の技術開発		
事業者	・福永 博 株式会社福永博建築研究所 代表取締役 ・丸谷 博男 株式会社エーアンドエーセントラル 代表取締役			
技術開発 経費の総額 (予定)	20.40 百万円	技術開発 の期間	平成 25 年度	
<input type="checkbox"/> 1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 <input checked="" type="checkbox"/> 2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 <input type="checkbox"/> 3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発				
背景・目的	日本の木造住宅は高気密・高断熱化が進んできました。しかし今後は、自然環境との共生や自然エネルギーを有効に利用することが求められています。また、木造住宅は他の構造と比べて取り壊される期間が短く、ストックとして蓄積されていません。そこで、環境エネルギーとの調和を行える技術の開発と共に、従来技術を活かしながらか可変性の高い工法を開発することにより、地球環境負荷が掛からず、自然エネルギーの効率活用を行いながら住まい手が健康に生活することができ、建物を時代や持ち主のライフスタイルに合わせて可変することができ、木造住宅を永く使用することができることにより、木造住宅が社会ストックになることを目的としています。			
<p>【技術開発の概要】</p> <p>メゾネットハウスは、内部が大きな空間となる「外箱」と、内部に吹き抜けを有して自由に可変できる「内箱」で構成される住宅です。例えば、縦：7m×横：9m×高さ：7mの大きな空間を実現します。吹き抜けは、熱の対流を行う上で必要です。2階の床を造る時は、外箱と内箱をつなぐ柱以外に、柱は造りません。柱が邪魔することなく、内箱は自由にリフォームすることができるので、木造住宅を100年以上にわたり使用することが可能になります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="232 1164 484 1340"></div> <div data-bbox="500 1154 761 1470"></div> <div data-bbox="778 1164 1009 1470"></div> <div data-bbox="1037 1164 1224 1460"></div> <div data-bbox="1252 1164 1438 1460"></div> </div> <p style="text-align: center;">＜四隅に耐力壁＞</p> <p>工務店が簡便に理解でき、デザインに優れた工法を導入できる仕組みを構築し、在来技術を活かして、誰でもハウスメーカーと対抗できるシステムを構築することが今回の開発・実用化の主眼です。</p> <p>【本年度の技術開発の内容】</p> <p>「メゾネットハウス」の技術開発は主に構造耐力の検討・実験、構造計算等になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実験モデルプランの設計 (2) 構造計算 (3) 実験用モデル模型の製作と各種実験 (4) 基本モジュール・仕様のまとめ 				
総評	木造住宅に対し可変性技術を取り入れた技術開発であり、住宅の長寿命化に寄与する開発として期待できる。 耐久性向上に寄与するためには、可変性のみならずメンテナンス技術も含めた総合的な長寿命化技術としての開発を行うこと。			